

佐賀大学での学びを活かし、様々な分野で活躍する卒業生たち。そんな先輩方の現在の思いや大学生活の過ごし方など、皆さんへのアドバイスを熱く語って頂きました。



佐賀市立本庄小学校 勤務
刀根 有紀 さん

文化教育学部学校教育課程障害児教育選修2010年3月卒
(佐賀県立伊万里高等学校出身)

佐賀で学んだことを佐賀の教育現場で活かすために。いろんな子ども達と関わり、しっかり支援していきたい。

佐賀大学を選んだ大きなきっかけは家から近いということ。教師になりたいくて、興味を持っていた障害児教育選修へと進学しました。障害児教育というのは、講義を聞いただけでは理解できとは言えません。在学中特別支援学級のボランティアに参加し、子どもたちにたくさん関わることで経験を積み、その経験と大学で学んだ知識を繋げることで初めて納得できるという場面がとて多くありました。

この仕事をはじめて9年、今の小学校が3校目です。特別支援学級の担任として、学習と支援の両面でクラスの子もたちと向き合っています。知的障害や身体障害など、障害の種類によって対応も変化させなければならないのが難しいところですが、いろいろなケースの子もたちと関わることで対応にも幅ができると思っています。

在学中の障害児教育選修は一学年12名と少人数だったため、仲が良く、ほとんどが先生として活躍しているので、今でも折に触れ連絡を取り合い情報交換などしています。今はまだほかの先生から教えられることが多いのですが、自分の知識や経験を他の先生達にも共有できるよう頑張ります。



佐賀大学芸術地域デザイン学部
教務補佐員・絵描き
八頭司 昂 さん

文化教育学部美術・工芸課程2013年3月卒(福岡県筑陽学園高等学校出身)

自分の取り巻く環境を敏感に感じとり職員としては学生と同じ目線で、絵描きとしては妥協をせず、真摯に芸術と向き合っていく。

佐賀大学芸術地域デザイン学部という新学部で教務補佐員として、主に1年生のコア科目「芸術表現基礎・地域デザイン基礎」の補佐をしています。学生が課題に取り組む際、生じた疑問や課題解決に必要な要望の対応や、学生がより効果的に課題に取り組めるよう促すのが私の仕事です。並行して絵描きとしての発表も行っています。恩師はじめ学部設立に伴ってこられた先生方に私自身多くの刺激をいただいています。

学生時代は主に西洋絵画に関する知識と技術、一人の表現者として活動していく術を学びました。佐賀市の中心市街地での複合的アートイベント運営や、美術・工芸課程の学生委員会の運営に携わることで組織運営について学び、また全国各地のアートNPOの方々との出会いや大学美術館開館記念展示を手伝わせていただいたことも、貴重な経験となっています。いろいろな経験は世の中を面白く見るための視点や手段、持久力を得ることができ、自分自身に多くの影響を与えてくれました。

大学で得た体験や知識、人との繋がりなどは未来の自分に向かう手綱として編まれていくはず。この大学で自分を高めていってください。



佐賀県庁 勤務
楠田 詞也 さん

経済学部経済システム課程国際経済社会コース2011年3月卒
(佐賀県立小城高等学校出身)

生まれ育った佐賀が好きだから。
地元の大学だからこそ得られた学びや力で、
佐賀をもっとよくしたい。

「どの大学でも自分のしたい勉強はできる」と高校の進路指導の先生に勧められて、地元の佐賀大学に進学しました。大学在学中は、勉強、部活動、アルバイトなどを行うにあたり、「意欲的に取り組むこと」「しっかり考えること」を心がけていました。そういった意識が、「新しいことを学ぶ姿勢」「問題や課題に対する思考力」として今に繋がっているのだと思います。就職の際は、地元の小城市、そして佐賀県の発展に、いろいろな分野で関わりたいという想いから、2、3年おきに違った仕事に携わることができる、県庁の行政職を志しました。常にフレッシュな気持ちで仕事に向き合うことができ、自分の知らないことをたくさん吸収できることが魅力です。何より、この数年間で経験したどの仕事も入庁時に抱いた想いに繋がっていることを実感しています。

高校を卒業すると、地元を離れて、人脉や視野を広げたいと思う人も多いでしょう。それでも、地元の大学に進学し、地元で就職したからこそ感じることもあります。人脉は、広がりに加えて、その繋がりの“強さ”を感じます。視野も、ずっと見てきたからこそその“深み”が出てきます。その事が、より一層、自分を高めてくれます。皆さんにとっても、佐賀という土地は、たくさんの学びと力を与えてくれることでしょう。



新渡戸記念中野総合病院 臨床研修医
高松 優光 さん

医学部医学科2015年3月卒
(South High School出身)

夢は国際保健に貢献できる人。
佐賀での経験や知見を更に積み重ね、
国や地域にあった医療システム提言等が続けたい。

高校時代から国際開発や途上国支援ができる国際保健に関わりたと思っていました。まずは国際的視野を広げるため、在学中アメリカ、中国、イギリスの三カ国に短期留学をしました。医学部はカリキュラムが詰まっているので春休みや夏休みを利用しての留学となります。短期ではありますが、現地の文化や生活、海外の医学に触れることができ、良い経験ができました。大学卒業後は臨床現場ではなく、医療政策のシンクタンクである日本医療政策機構に1年間就職。その後臨床の現場での経験を積むため、病院の研修医となり現在に至ります。

医学部での医学全般の学習は今の自分にとっての基礎となっています。と同時に、陸上部とトライアスロンの部活に所属しつつ、公民館で健康教育をボランティアで実施するサークルの立ち上げなど、勉強と部活、サークルの両立という経験も自身の大きな成長に繋がりました。

私には医療を通して世界に貢献できる日本人になるという夢があります。その夢を叶えるための基礎づくりや地域との関わり方を学べたのは佐賀で過ごせたからこそ。佐賀大学での日々を自分の手で充実させてください。



京セラ株式会社自動車部品事業本部 勤務
田代 功 さん

理工学部機能物質化学科・大学院工学系研究科循環物質化学専攻2012年3月卒
(長崎県立佐世保高等学校出身)

大学で培ったのは柔軟な思考と自己管理能力。
技術を磨き、品質世界一の車を世に送り出したい。

化学担当の恩師の影響もあり、深く化学を学びたいという想いと、地元長崎に近いということで佐賀大学の機能物質化学科へ進学しました。4年次から大学院2年間は高分子化学を専攻。希望通り化学の基礎から応用までみっちり学ぶことができました。大学は自由な時間も多いうところ。その自由な時間によく観ていた深夜のF1レース中継が、自動車に関わる仕事に就きたいと思うようになったきっかけです。九州にも拠点があり、自動車部品を開発、製造している企業ということで京セラに就職しました。現在、品質保証部で出来上がった製品がお客様の供給に合致しているかを検証する毎日ですが、自分で製品を開発したい気持ちもありました。しかし仕事をするうち、ものづくりの現場において最も重要なのが品質保証部ではないかと思うようになったのです。今は品質世界一の製品を世に送り出す為の責任感ややりがいをととても感じています。

この思考の柔軟さは、大学6年間で自己管理の大切さ、自ら考えるという部分を成長させたからだと思います。高校とは違い、何でも自分で決めていかなければいけません。勉強する時間と自由な時間を上手く使いこなせるようになってほしいと思います。



キューピー株式会社 勤務
中村 美希 さん

農学部生命機能科学科2015年3月卒
(長崎県立長崎東高等学校出身)

大学での学び全てが今に繋がっている。
身につけた知識を活かし、食を通して
家族や地域の人々を笑顔にする商品開発が夢。

大学に入学するまでは様々な職種に興味を持ち、具体的な夢などありませんでした。しかし大学に入学し、幅広い学びの中で自分のやりたいことを真剣に模索するようになりました。現在は卵を扱う部署に所属しており、主に業務用タマゴサラダの開発に携わっています。お客様のニーズを考慮した調味料の工夫や試食評価、製品の分析などが主な仕事ですが、多くの場面で、大学で学んだ微生物学や栄養学などの知識が役立っています。

農学部はとてもアットホームな学部で、教授の方々はとても丁寧に指導してくださいました。勉学以外の相談にのってもらうなど、心強かったですね。バトミントン部に所属していましたが、勉強と両立しながら全国大会に出場するほど頑張れたことは、職場の繁忙期でも前向きに取り組めることに繋がっている気がします。

今後の夢は、会社が取り組む食育を通して、自分が開発した商品をお子に美味しく食べてもらうこと。家族や地域の人々が食を通して笑顔になる、そんな商品を開発したいですね。佐賀大学で過ごせた4年間は自分の将来と真剣に向き合い、精神的にも成長できました。この大学での学び全てを、自分の将来につなげてほしいと思います。